

7005A

セイコーオートマチックカレンダー

1) 仕様

機械落径	27.00mm
機械厚ミ	4.50mm
テンプ振動数	21,600回/時
自動巻	
カレンダー	
日修正装置 (リュウズ回転式)	

2) 特長

分解組立の容易さと機能の安定性を考慮し、非常に合理的に設計されています。このためネジ、バネ類などの部品点数は大巾に減っております。

したがって、分解組立もしやすく、故障の要因も少く、取扱いも簡単で、お客様に安心しておすすめできます。

また便利な回転式日修正装置付きで、小型軽量脱進機及び大きな保有エネルギーを有するテンプの使用により、性能も十分高められています。

3) 分解・組立

分解は図の番号①→④⑤の順序に分解してください。

組立は図の番号④⑤→①の順序に組み立ててください。

4) 注油

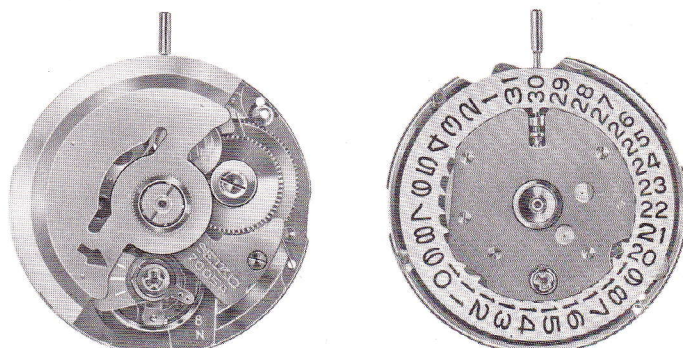
図中の色は油の種類と注油箇所を示します。

● メービスA

● セイコーウォッチ油S-4

これ以外の油を使用する箇所は、別に示してありますので、確実に注油してください。

注) 指示のない箇所には、注油の必要がありません。



ムーブメント

5) 取扱上の注意事項

1 日修正は二段目、針合わせは三段目で時計方向に。

日修正は常に二段目でおこない、リュウズを反時計方向に回したとき、日送りが連続的にできるか確認してください。

針合わせは三段目でおこないます。ただし3時間戻しによる日修正はできませんので針合わせは時計方向におこなってください。

2. 自動巻輪列にはS-4を注油。

分解組立の際は、必ず指定された油を使用してください。特に自動巻部にはセイコーウォッチ油S-4を多めに注油することをおすすめします。

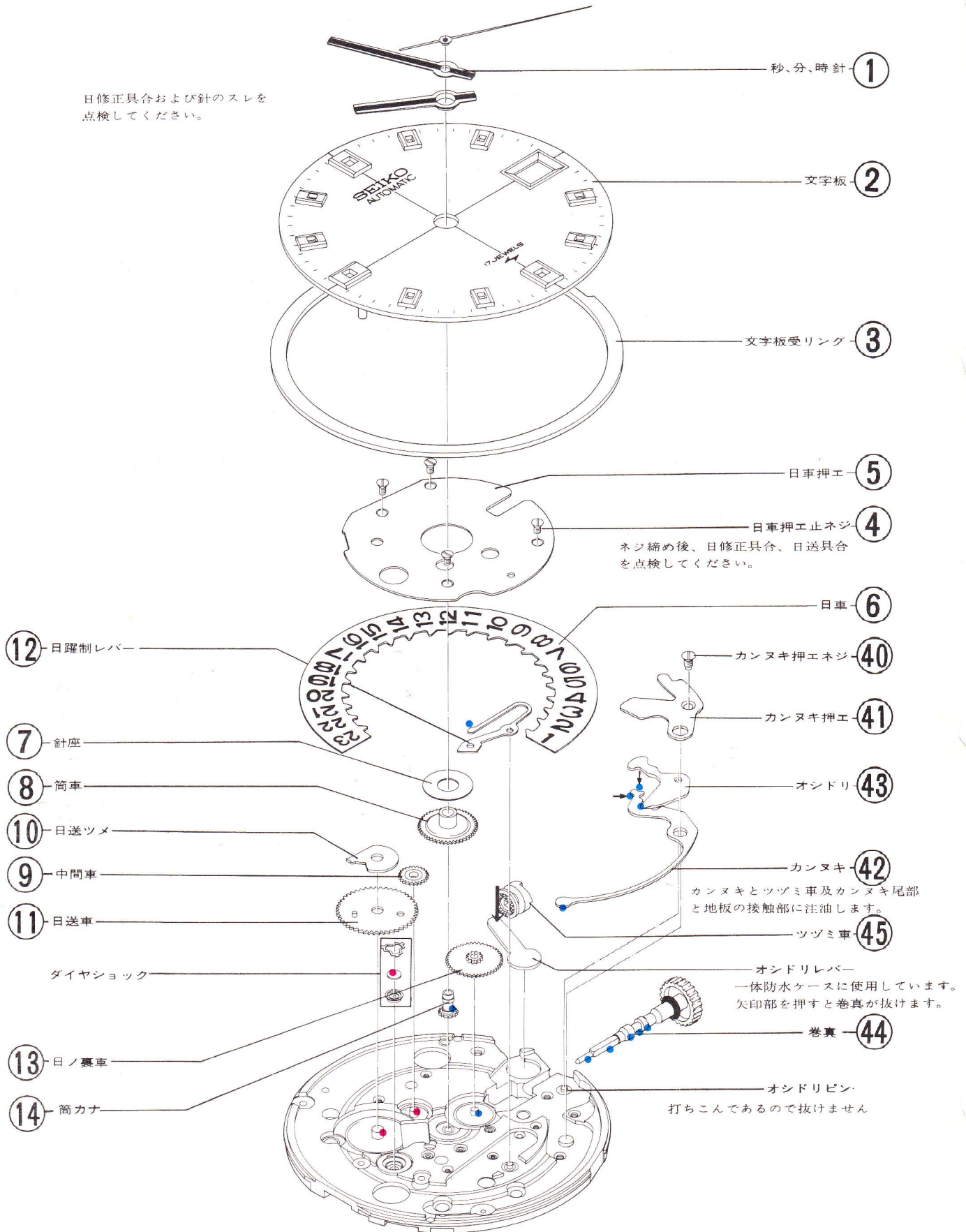
S-4が手もとにない場合はS-6でも結構です。

3. 回転錘の組み立ては⇨○を合わせて。

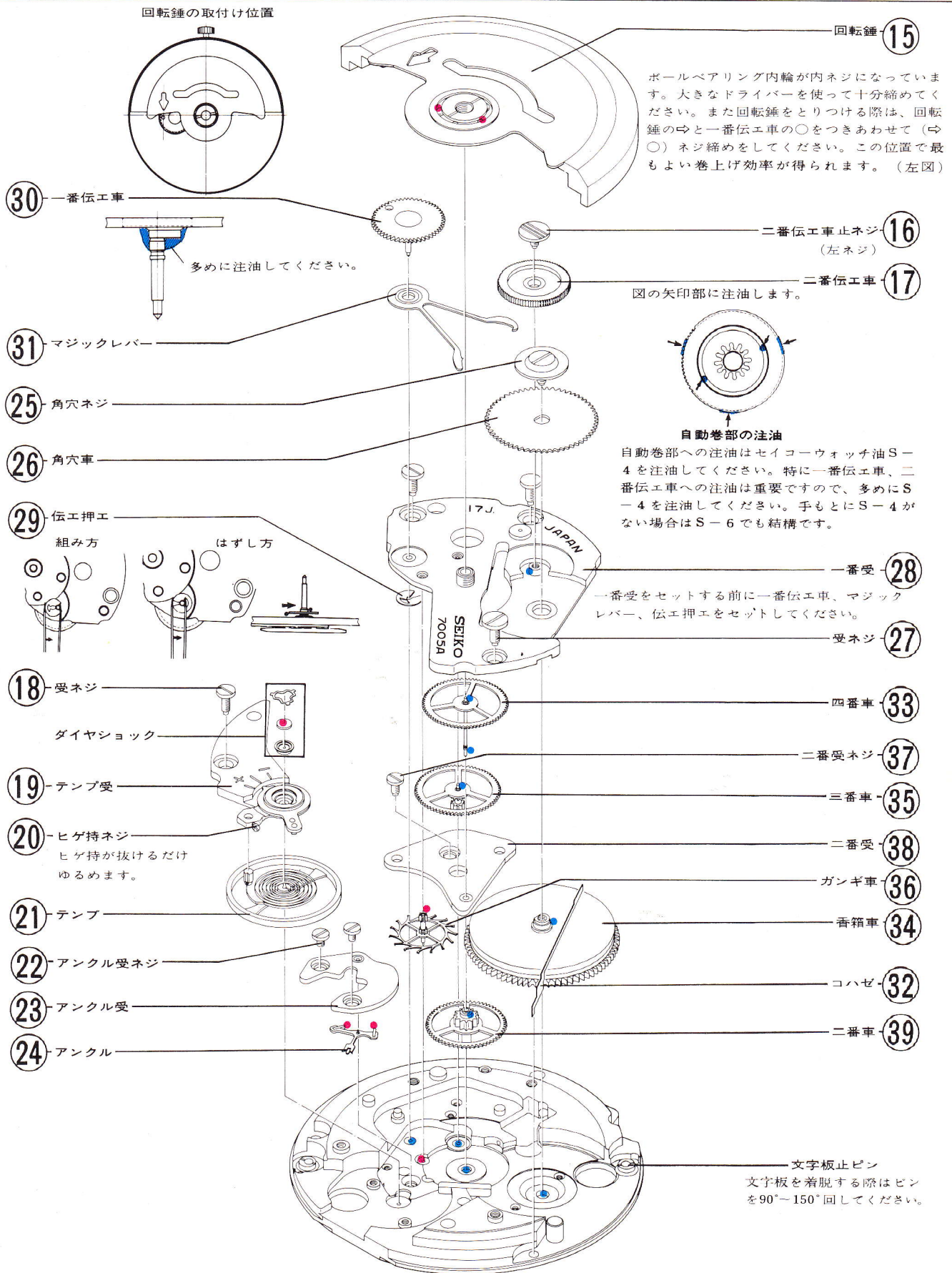
回転錘を取付ける場合は、回転錘の⇨穴と一番伝エ車の○穴が、つきあわされた状態(⇨○)で最大の巻上げ効率が得られます。

7005A カレンダー 切換機構

日修正具合および針のスレを
点検してください。



7005A 自動巻 輪列 脱進 调速機構



6) 自動巻機構の力の伝達

回転錘 → 一番伝エ車 → マジックレバー →
→ 二番伝エ車 → 角穴車 → ゼンマイ

角穴車の穴と香箱真上部はD形状になっていますので、角を合わせて組み込んでください。
(図-1)

7) 切換、日修正機構

リュウズ一段目：フリーの状態です。(図-2)

リュウズ二段目：ツツミ車のラチェット歯が日車の歯とかみあって、ここでリュウズを左に回せば日修正ができます。日修正のできない区間はありません。(図-3)

リュウズ三段目：ツツミ車は日ノ裏車とかみあい針合わせができます。針合わせは時計方向でおこないます。

(小鉄車はありません)

(図-4)

文字板止ピン

偏心ピン式を採用しています。溝部をドライバーで右回転すれば、ピンの斜面部が文字板の足に食い込み固定されます。(図-5)

分解する時は左に回せば文字板足から斜面部がはなれますが、文字板止ピンを地板から抜く必要はありません。

オシドリピン

図のようにバネ性を利用して地板に結合されていますので、分解組立の際は地板から抜く必要はありません。巻真を抜く場合は、表側からドライバーを溝に直角にあてて押してください。(図-6)

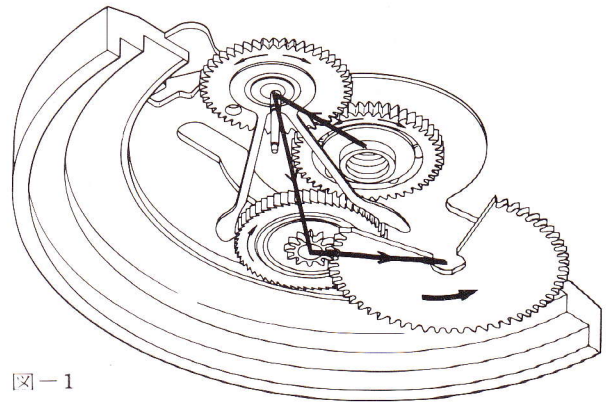


図-1

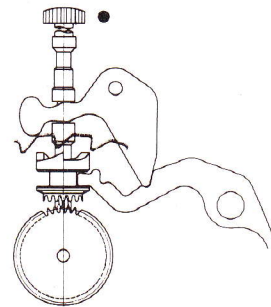


図-2

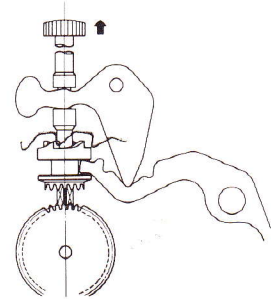


図-3

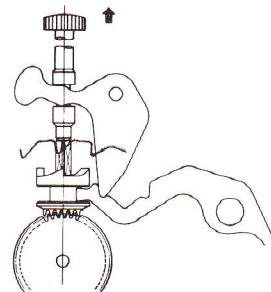


図-4

(組立) (分解)

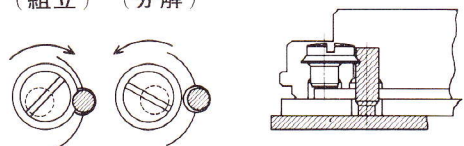


図-5

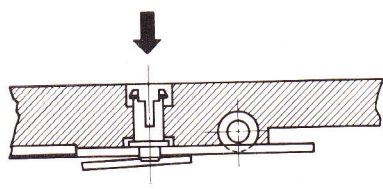


図-6